

サスティナブルなまちづくりに欠かせない、そこで暮らす人や働く人。
そんな市を代表する様々なジャンルの人物にスポットを当て、市に尽力する活動や市に対する想い、
魅力を語って頂きました。



ヒルズ通りを沖縄で一番
魅力ある通りにしていきたい！



健やかで安心な暮らしを
高齢者が住みやすい街を目指したい

ぎのわんヒルズ通り会 仲村 高志さん

ぎのわんヒルズ通り会は20年の活動休止を経て、平成27年に活動を再開。県道81号線に面する店舗や歯科、不動産会社、お寺など、様々な業種からの会員で構成されています。個店では解決できない問題を組織として対応し、共に力を合わせてイベントの開催や環境づくりに取り組んでいます。コロナ禍には、売り上げに悩む飲食店のためにテイクアウトやテラス営業のための道路占用許可基準を緩和。衰退しない仕組みづくりを積極的に行います。「目下の目標は、普天満宮・神宮寺前に整備予定の「門前ひろば」にてヒルズ祭りを開催すること。通り会の店舗を出店し、参拝客や若者、老若男女問わず足を運んでもらえたら地域の活性化に繋がりますね」

地域包括支援センターぎのわん 金城 敬さん

市から委託・設置されている「地域包括支援センター」は高齢者の何でも相談窓口。65歳以上の方を対象とし、福祉、介護、医療、健康など、問題に応じて適切なサービスや機関、制度の利用に繋がります。センター長の金城さんは生まれも育ちも宜野湾市。「皆さんが住み慣れた街で安心して暮らしていただけるようにさまざまな面から支援させていただいています」と話します。今後の課題は、移動手段のない高齢者が徒歩で通える範囲に“ゆんたく”できる「集う場」を作っていくこと。地元の企業と協力しながら、認知症カフェも増やしていきたいそうです。「私たち全員がいずれ歳をとるので、若者世代から地域に関わっていく流れが作れたら良いですね。」